

Information

■日本短期体験講座 ～インドネシア中高生の日本文化体験～

2022年12月10日、インドネシアの中高生の皆さん25人が、つくば市さくら民家園で、着物の着付けと茶道体験を行いました。この体験は、市内のボランティア・着物愛好会と茶道有志の会の皆様にご支援いただきました。インドネシアの生徒の皆さんからは、お茶もお菓子もとてもおいしかった。「将来日本に留学したい。」など、頼もしい感想がありました。また、コロナ禍のため、このような交流が久しぶりのボランティアの方からは、「久しぶりに外国の方と接することが出来た。」「とても楽しかった。」など、直接交流することの楽しさを思い出す機会となったようでした。



インドネシアの中高生とボランティアの皆さん



茶道体験



茶道体験

Notice Board

■つくば市国際交流協会 賛助会員募集！

当協会では、協会活動の趣旨にご賛同いただける皆様からの資金面でのご支援を募っています。

◆令和4年度の賛助会員（団体及び法人）（敬称略）

TIVONAの会、（一財）21世紀教育会、浅野物産㈱、飯野工業㈱
㈱河野正博建築設計事務所、㈱建築設計室匠工房、関彰商事㈱、
㈱高田工務店、㈱ライフアップ、大和リース㈱、常陸興業㈱、
（一社）つくば観光コンベンション協会

◆賛助会費

個人：1口 2,000円／年
団体：1口 10,000円／年
法人：1口 20,000円／年

※このほか、運営を支援いただく各種ボランティアがごいます。詳しくは、当協会のHPをご覧ください。

編集・発行



（一財）つくば市国際交流協会
〒305-8555 茨城県つくば市研究学園1-1-1 つくば役所内
TEL：029-869-7675 FAX：029-869-5356
ホームページ：<https://www.inter.or.jp/> メールアドレス：info@inter.or.jp

（2023年3月発行）

Hot Topic!

やさしいにほんごで地震体験

「にほんごでおしゃべり！プロジェクトチーム」との共催により、防災士の水谷浩子さんを中心に「やさしいにほんごで地震体験」を開催しました。

ロープの結び方を体験するロープワークでは、緊急時に使える「もやい結び、本むすび、巻き結び」の3つを参加者自身が結んでコルク板に貼り付けて持ち帰ることができました。もやい結びは少し難しかった方もいたようですが、ブース担当者と一緒に楽しく結んでいました。

防災バッグは100円均一店で購入できるものを中心に展示し、ボランティア参加の防災士などに使い方などを説明いただきました。

防災かるたは、本イベントを機に作成したもので、読み札には英語の説明も載せて、外国人にも理解しやすくしました。これは大人気のコーナーとなり、母語の違いも関係なく、大人も子どもと一緒に楽しんでいました。今後、全国に貸し出すなどして防災の知識を広げられたいいなあ。などと考えています。

起震車は、東日本大震災などの揺れを震度7まで体験できるもので、実際に乗るとこんなにも凄いなと思いました。体験は50秒間でしたが、実際は3分以上揺れが続いたとのこと、参加者も大変驚いていました。ただ、小さいお子さんにとっては楽しいアトラクションの感じも感じられたみたいです。

今回は、この他にも、公衆電話、避難所、給水所などが書かれた、つくば駅周辺の防災地図を作成、配布しました。また、防災クイズに全問正解した方には、つくば市からご提供いただいた携帯トイレや、協会からは防災バッグにも使える長バッグをプレゼントしました。

参加者からは外国人にもわかる、「やさしいにほんご」を使った防災イベントの重要性、必要性を訴える声がありましたので、今後も継続していきたいと思えます。

なお、この活動は、一般社団法人減災サステナブル技術協会の2023年 防災・減災×サステナブル大賞 防災・減災×SDGs賞 アカデミー&ジュニアアカデミー部門において、コミュニティ賞を受賞しました。



Contents - もくじ -

- P1 Hot Topic!
やさしいにほんごで地震体験
- P2 Link!
ルッシーさんインタビュー
- P3 Zoom Up! ①
～一杯のお茶から世界が見える～
世界お茶のみ話
Zoom Up! ②
日韓オンライン交流事業
茶道・料理体験
- P4 Information
日本短期体験講座
～インドネシア中高生の日本文化体験～
Notice Board
賛助会員募集





Link!

ルッシーさんインタビュー

Lussy Novarida Rahwan



つくばが大好き！というルッシーさんにお聞きしました。

私が日本に興味を持ったきっかけは、インドネシアで観た「おしん」です。「日本人はどうしてこんなに頑張れるのか。」と強烈な印象を受けました。それから、日本に興味を持ち、調べていくうちに、もっと見たい、聞きたい、知りたいと、気持ちがどんどん大きくなりました。

日本での体験

私が初めて来日したのは大学2年生の時、鹿児島大学の学生でした。大学を卒業してから、一度帰国し、4年後、夫の仕事の関係で再び日本に、そして「つくば」に来ることになり、筑波大学の日本語学科で学びました。ある時、教室で、インドネシアに行ったことのある日本人が、インドネシア語を話していました。そのインドネシア語が方言混じりだったのでビックリしました！その時、はじめて「もしかしたら、私の日本語に鹿児島方言が入っているかも知れない。」と思いました。国が違っても同じように、地域や環境で言葉は少しずつ変わっていることを、改めて実感しました。

また、つくばに住んでいる時、つくば市国際交流協会の日本語クラスにも4年くらい通いました。それがきっかけで、つくばの小学校で母国紹介の機会をいただき、楽しかったことが、印象に残っています。特に、特別支援学校での母国紹介は、母国にはないタイプの学校でしたので、とても良い経験になりました。

こどもの教育

息子達が中高生になった時、私は、彼らに「インドネシア人として母国を知ってもらいたい。」と思い、家族みんなで帰国することにしました。私の家族は、夫がジャワ語、私はスマトラ語（ベナン語）、息子達は日本語と、育った環境により母語が違っていたためです。息子達はインドネシア語での学校生活や学習に慣れるまで、本当に苦労したと思います。それは、ちょうど思春期だった息子たちが、その年代をどのような環境で過ごすか、母語をどう身につけるのかを、考えるきっかけくれたのです。

日本語学校の設立

話は前に戻りますが、鹿児島から帰国した時に、故郷のインドネシアに日本語学校を設立しました。そして、現在では、インドネシア国内に5,000人の会員を持つ中等教師会の会長と日本語教育会の事務局をしていることから、日本の大学や高校への視察やこどもの日本プログラムへの依頼が増えており、特に今回の青少年のプログラムのような、日本の文化体験や日本語体験は彼らの将来に大きな希望を与えています。

つくばが大好き

私は、つくばが大好きです。もともとは、自分自身の興味から始まったことですが、これからも、インドネシアと日本の架け橋になり、特に奨学金を受けられない子ども達にも留学して、日本で学ぶチャンスを与えたいです。そして将来、彼らが仕事に就いた時に、この経験を生かして、活躍してほしいと思っています。

事業報告①



～一杯のお茶から世界が見える～ 世界お茶のみ話

11月19日と12月17日に韓国編とつくば国際交流センター（TIS）編を行いました。

11月19日の韓国編は、当協会と交流のある「大田広域市外国人住民支援センター」の金倫熙（キムユンヒ）センター長が、韓国の科学技術都市である「大田市」の観光や食文化など、そして同センターの事業についてご紹介いただきました。

12月17日のTIS編では、生徒9人による、インド、スーダン、韓国、プエルトリコと日本を「衣服、食、住居」をテーマに文化比較の発表をしました。参加者からは、その国をもっと知りたくなった。ほかの国についても発表してほしい。などの感想が寄せられました。興味のある方はぜひ、YouTubeでご視聴ください。



事業報告②



日韓オンライン交流事業 茶道・料理体験

当協会と韓国大田広域市の「大田広域市外国人住民統合支援センター」は、2015年から交流しています。今回は、オンラインで「似ているけど違うもの」というテーマでイベントを実施しました。

11月5日は「茶道」がテーマで、両国の講師がそれぞれの国の「茶道」の歴史とお手前を披露し、それぞれの国で参加者が両方の「茶道」を体験しました。

11月26日は「料理」がテーマで、日本の家庭料理は海苔巻きと豚汁、韓国の家庭料理はキムパッ（海苔巻きのようなもの）とテンジャンゲ（韓国みそのスープ）などを作りました。

それぞれの道具や作法、材料や作り方、味の違いなど、体験し、比較することにより、「似ているけど違うもの」を実感しました。参加者からは「とても楽しかった。」という風に韓国と日本の似ているけど違うものがあることが分かった。」などの感想がありました。

当日はボランティアのKOREA文化交流協会と茶道有志の会の皆様にご協力いただきました。

今後も継続して、同センターとの交流を続けていく予定です。



茶道 韓国



茶道 日本



料理 日韓